

八戸工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	人文社会科学要論A(5108)	
科目基礎情報							
科目番号	0028			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	産業システム工学専攻マテリアル・バイオ工学コース			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	小田中直樹『歴史学のトリセツー歴史の見方が変わるときー』(筑摩書房)授業プリント						
担当教員	佐伯 彩						
到達目標							
・ 歴史学のこれまでの趨勢について理解し、表現することができる。 ・ 現代社会を歴史学や人文社会科学がどのように認識しているのかについて表現することができる。 ・ 社会科学における社会認識について理解したうえで、現代社会の問題に目を向け、その知識を応用することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	歴史学のこれまでの趨勢について理解し、表現することができる。			歴史学のこれまでの趨勢を理解している。		歴史学のこれまでの趨勢を理解していない。	
評価項目2	現代社会を歴史学や人文社会科学がどのように認識しているのかについて表現することができる。			現代社会を歴史学や人文社会科学がどのように認識しているのかについて理解している。		現代社会を歴史学や人文社会科学がどのように認識しているのかについて理解していない。	
評価項目3	社会科学における社会認識について理解したうえで、現代社会の問題に目を向け、その知識を応用することができる。			社会科学における社会認識について理解したうえで、現代社会の問題に目を向けている。		社会科学における社会認識について理解したうえで、現代社会の問題に目を向けていない。	
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー DP1 ◎							
教育方法等							
概要	【開講学期】後期週2時間 近年、歴史学や人文社会科学系学問においても職業的レリバンス(さまざまな職種において応用・実践の可能性)が強く求められるようになった。その最たる例が、中等教育における「歴史総合」の導入である。では、こうしたレリバンスを求められている現代社会に至るうえで、歴史学はどのように発展してきたのか。本講座では、歴史学がどのように発展してきたのかについて理解する。同時に授業で得た知識を下地に、現代社会を人文社会科学系学問がどのように認識しているのかについて理解を深める。						
授業の進め方・方法	・ 授業は講義形式・ディスカッション・学生発表の3つの形式をとる。週の前半は講義とディスカッションを行い、後半で学生発表を行う。 ・ 授業方法はパワーポイントで進める。また、学生には教員より授業プリントを配布する。 ・ 後半の発表については、学生によるスライドを用いた発表を行う(各自1回ずつ)。 ・ 総合評価は授業終了後のレポート(50%)、学生発表(30%)、授業中の発言・授業中の課題提出(20%)で行う。 ・ 総合評価を100点満点とし、60点以上を合格とする。						
注意点	・ 歴史学の流れについて、ディベートやディスカッションなどを交えることもあるので、積極的に意見を述べることを強く求める。 ・ 授業で用いた資料・概説書については適宜提示するので、授業理解のために積極的に確認すること。 ・ 人文社会科学は書物を読んだり、積極的な社会とのコミュニケーションが求められる。そのため主体的かつ能動的に情報を収集する意識を持つこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		授業の目的・展開・学生発表などの諸々の連絡・決定事項について確認する。		
		2週	現在の歴史教育ー現在の教科書比較		現在の歴史教育の特徴について理解することができる		
		3週	歴史叙述とは何かー科学としての歴史学		科学としての歴史学の流れについて理解することができる。		
		4週	19世紀の歴史学の成立と実証主義の問題ードイツ歴史学とナショナル・ヒストリー		19世紀の歴史学の成立と実証主義の問題について理解することができる。		
		5週	20世紀の第二次世界大戦とアナール学派の成立①		20世紀の第二次世界大戦とアナール学派の成立について理解することができる。		
		6週	20世紀の第二次世界大戦とアナール学派の成立②		20世紀の第二次世界大戦とアナール学派の成立について理解することができる。		
		7週	グローバリゼーションと歴史学①ーウォーラーステインに至るまでの経済史の展開		グローバリゼーションについて歴史学はどのようなアプローチを示してきたかについて理解する。		
		8週	グローバリゼーションと歴史学②ーウォーラーステインの近代世界システム論		ウォーラーステインの近代世界システム論について理解することができる。		
	4thQ	9週	日本の戦後歴史学ー大塚久雄とマルクス主義歴史学		日本の戦後歴史学の流れについて理解することができる。		
		10週	ポスト・モダニズムと言語論的展開ー言語論的展開とは何か		ポスト・モダニズムと言語論的展開について理解することができる。		
		11週	ポスト・コロニアリズムーエドワード・サイードのオリエンタリズム		ポスト・コロニアリズムについて理解することができる。		
		12週	現在の歴史学の状況ーグローバル・ヒストリー、パブリック・ヒストリー等等		現代の歴史学の状況について理解することができる。		
		13週	学生発表		学生発表をすることができる。		

	14週	学生発表	学生発表をすることができる。
	15週	学生発表	学生発表をすることができる。
	16週	総括授業	これまでの授業の総括をする。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	4	後13,後14,後15
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
		グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4	後13,後14,後15
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	4	後2,後13,後14,後15
				目標の実現に向けて計画ができる。	4	後1
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	4	後1
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	4	後13,後14,後15
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	4	後13,後14,後15
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	4	後13,後14,後15
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	4	後13,後14,後15
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	4	後1,後13,後14,後15

評価割合

	レポート	学生発表	授業内での発言・授業中の課題提出	合計
総合評価割合	50	30	20	100
基礎的能力	50	30	20	100